行動

一、刻下府並ニ普選ノ声喧ニシテ本會員中又之ニ共鳴スル向モ
加キモ彼此ノ目的ニシテ達セラル、モ労働者ガ強固ナル団体ヲ有スルニアラサ
レハ折角得タル選挙権モ完全ニ行使スルコトヲ得サルヤノ従テ労働組合
ノ完成ハ当面ノ急務トナサルベカラズ然ルニ現行治安警察法上禁止サレアルヲ
以テ本會ハ此ノ法条ノ撤廃方議會ニ請願セントス此ノ案ノ可否ヲ決セ
ンガ為メ三月十日午後七時ヨリ本部楼上ニ大會ヲ開催セントス各員来會スベシ」ト宣
朝日ニ至リ来會者約三百名ニシテ当半會長廿伏新次郎ヨリ撤廃
ニ関スル法文ノ説明及各支部代表ヨリ簡単ナル賛成演説アリ宣言書
及請願書ノ起草委員並ニ実行委員ヲ選挙シ散會ス三月十五日ニ至リ
実行委員廿伏新次郎等数名ハ代議士今井嘉幸ヲ介シテ請願書ヲ
議會ニ提出セリ

一、今年七月十六日會長鈴木文治欧州ヨリ帰国シ今月十九日午後七時ヨリ本部楼上ニ歓
迎演説會ヲ開催セリ席上鈴木文治ハ講和會議ニ於ケル我委員ノ不
用意ヲ攻撃シ之ニ畢竟従来我政府当局ガ労働階級ヲ軽視セル結
果ニ外ナラズトナシ来ルヘキ労働大會ニ派遣スヘキ代表ノ人選ニ関シ我友
愛會ニ諮ラズシテ決定スルガ如キ事アランカ本會ハ絶対ニ之ニ反対セサル
ヘカラスト述テ自己ノ代表タラントスルノ意ヲ仄セリ而シテ之ガ宣伝ノ為メ鈴木ハ
麻生久、松岡駒吉ノ両幹部ヲ引キ具シテ京都、大阪、九州地方ヲ遊説シ八
月九日帰京更ニ東北地方ニ向ヒ今月二十七日帰京セリ

一、本會ハ八月廿一日ヨリ三日間本部及芝区本芝宗光寺等ニ於テ創立七週年紀念祝
賀會ヲ開キ左記事項ヲ決議シテ大改革ヲ断行セリ
(一)機関雑誌「労働ト産業」ハ従来會員ニノミ頒布シ来リシガ一層内容ヲ
充実セシメ将来ハ一般人ニモ発売スルコト、シ會員ニハ別ニ會報ヲ発
行シテ本會ノ行動ヲ報告スル事
(二)他工場ニアル職工ガ会盟罷業ヲ為シタル際ニ者ガ其ノ応援演説ニ出席シ
タル為メ治警第十七条ニ依リ処分セラレタルトキハ本人ノ便宜ヲ計ルハ勿

論家族ニ対シテモ慰問スル事
(三)従来ノ団体的労働者ノミヲ以テ會ヲ組織シ来リタルモ今後ハ精神的労
働者モ包容スル事
(四)會名ヲ改メテ大日本労働総同盟友愛會トシ内部組織ヲ理事制トスル事

一、大正八年九月十五日米国華盛頓ニ於テ開催サルベキ労働代表派遣人選ニ関シ
農商務省ニ於テ協議會開催セラルルヤ鈴木文治ハ友愛會ヲ代表シテ参列シ
這般ノ協議員選定方法ガ国際労働準備委員会ノ趣旨ニ反リ且ツ協議員
ヲ除外セルヲ不当トシテ政府当局ノ措置ヲ非難シ協議員ノ資格ヲ審
査スヘシト提議シタルモ容レラレサリシ為メ憤慨シテ退席セリ然ルニ一方協議
會ニ於テハ議事ヲ進行シ初メ議長指名ニテ多ク精一ヲ選出シタルモ拒絶ヲ
得ズ更ニ議長指名ニテ高野岩三郎ヲ選ベルモ同人ハ現ニ友愛會評議員タ
ル地位ニアリシヲ以テ本會ニ対シテ了解ヲ得ヘク交渉シ吉野作造、廿伏新
次郎等幹部ニ協議スルモ本會ニ於テハ幹部會ヲ開催シテ本會ハ現ニ表
面協議ニ参与シ開催中ノ協議員會ヲ認メズ従ッテ夫レニ依ッテ選出セラレ
タル代表委員ヲ認ムルヲ得ズト決議シタルヲ以テ高野ハ承認ヲ得ルコト不可能
ナリ最多数ノ會員ヲ有スル本會ノ反対ヲ無視スルヲ得ストナシ辞スルニ至レ
リ茲ニ於テ協議委員會ハ三度目ニ桝本卯平ヲ挙ケ全人ノ受諾ヲ見ルヤ
本會ハ大日本鉱山会盟會、信友會、其他ノ労働団体ト提携シテ反対運
動ヲ開始シ其ノ労日ト共ニ熾烈トナレリ其主峰ノ概要左ノ如シ
(1)従是先九月二十四日午後一時ヨリ神田青年會館ニ友愛會、信友會
共催ノ出口労働者大會ヲ開催シ西幹部及堀江帰一、福田徳三等
ノ労働権擁護ノ演説アリテ午後五時散會セリ
(四)十月一日午後一時ヨリ芝公園ニ友愛會、信友會、大日本鉱山労働会共
會ト共ニ労働代表反対大示威運動ヲ開催シ今日午後六時ヨリ日本
橋区久松町明治座ニ演説會ヲ催シ芝ヨリ演説各自ニハ旗ヲ手ニ
シテ會場ニ繰リ込ミ当局ノ採リタル労働代表選出方法ノ不法ヲ